

個別事業(取組)評価				
事業No.	13	施策の柱への位置付け	柱② 教員指導力改革	
事業名称	教員指導力改革実践事業 (中学校国語授業改善プロジェクト事業)		担当課	教育政策課
			当初予算額(千円)	1,578
			補正後予算額(千円)	-
		決算額(千円)	833	

		当初計画	年度末点検・評価										
①	現状(課題)とその要因	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 平成22年度の全国学力・学習状況調査では全国平均と比べ、知識・活用問題ともに、2.5から4.3ポイント低い結果となっている。少しずつ、全国平均に近づいているものの、まだ全国平均には達していない。</li> <li>◆ 教員の課題としては、授業1時間1時間はしっかりと計画し行うが、授業におけるPDCAサイクルが十分確立されていない。また、3年間を見据えた教材の系統性や授業構成が十分でない。</li> </ul> <p>【要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 3年後、2年後、1年後に、国語の授業を通して、目の前の子どもたちにどのような力をつけるのかという、目指すべき姿が明確でない。</li> <li>◆ 数値的な指標を持って取り組むことや、生徒をどう評価し、その評価を自分自身の指導にどう取り入れるのか計画的ではない。</li> <li>◆ ねらいに向けた教材解釈が十分に行われていない。</li> </ul>	<p>ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>受講者の満足度は全体で79.7%であったことから把握していた現状は正確であったと考えられる。</p> <p>イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>現状の把握と同様に要因についても十分に特定されていたと考えられる。</p>										
		<p>②</p> <p>目標(Outcome)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 中学生の国語の学力を全国水準とするために国語科の授業力の要素を取り入れた授業担当者自己評価票の活用及び「国語の授業が好き」になる要素を測る生徒授業評価票の活用並びに、実施した各テスト等からわかる誤答を分析する方法を身に付けさせることで国語科教員の授業力を向上させる。</li> </ul> <p>【目標数値】 全国学力・学習状況調査の国語Aは、全国平均に、国語Bは今の現状から2ポイント上げる。</p> <p>【検証(比較)方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 国語科の授業力の要素を次の6つと定義し、そのうち学習指導力、教材開発・活用力、生徒評価力にポイントを絞って研修を実施し、この3要素の変容について、自己評価と管理職による他者評価を用いて統計分析を行い、検証する。</li> </ul> <p>※ 6つの要素: 学習指導力、教材開発・活用力、教科教養力、家庭連携力、生徒評価力、一般教養力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「国語の授業が好き」になる要素(学習有能感、協同達成感、生活実用感)を測る生徒による授業評価票(国語好感度のアンケート)や実施した各テスト等から分かる誤答分析の結果を基に、1年間で目指すべき姿を具体化する授業分析シートを活用する。その授業分析シートを用いて受講者自身が授業改善を行い、その実践を検証する。</li> </ul>	<p>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 授業力の要素のうち、特に受講者の学習指導力については、成果が上がっていることから、目標の設定は適当であった。</li> <li>◆ 4年間で2ポイントの上昇については、概ね達成できる目標である。</li> </ul> <p>エ 目標は達成されたか (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/>)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 受講者が自己評価を用いて統計的に分析した結果、平成21年度受講者(I期)における2年間と平成22年度受講者(II期)における1年間とも、授業力向上に効果があったことが認められた。</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>時 期</td> <td>H21年8月⇒H21年12月⇒H23年2月</td> </tr> <tr> <td>I期自己評価</td> <td>2.85 3.07 3.20</td> </tr> <tr> <td>II期自己評価</td> <td>H22年5月⇒H22年12月 2.81 3.00</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 受講者の自己評価及び管理職が行った他者評価の統計分析の結果から、平成22年度受講者について、教科教養力(国語科に関する知識・教養)が高まった。</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>時 期</td> <td>H22年5月⇒H22年8月⇒H22年12月</td> </tr> <tr> <td>自己評価</td> <td>2.90 3.10 3.18</td> </tr> <tr> <td>他者評価</td> <td>3.26 3.45</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 受講者が担当する生徒の国語好感度(学習有能感、生活実用感、協同達成感)は向上したが、学力に十分に結び付いたかどうかは検証できていない。</li> <li>◆ 担当指導主事として、生徒の国語好感度の情意面では、向上したという結果が得られたものの、授業分析シートの活用が十分でなく、生徒の学力との結びつきが弱かった。</li> </ul> <p>オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 事前準備では、それらに基づく統計分析を行ったことで、より正確で有効なデータ分析を行うことができた。</li> <li>◆ 授業分析シートの改善により、個々の取組を把握することが容易になった。</li> <li>◆ 5日間の集合研修の受講者の満足度は82.3%であった。また、テスト等の誤答分析については、学力の把握に資することができた。</li> </ul>	時 期	H21年8月⇒H21年12月⇒H23年2月	I期自己評価	2.85 3.07 3.20	II期自己評価	H22年5月⇒H22年12月 2.81 3.00	時 期	H22年5月⇒H22年8月⇒H22年12月	自己評価	2.90 3.10 3.18
時 期	H21年8月⇒H21年12月⇒H23年2月												
I期自己評価	2.85 3.07 3.20												
II期自己評価	H22年5月⇒H22年12月 2.81 3.00												
時 期	H22年5月⇒H22年8月⇒H22年12月												
自己評価	2.90 3.10 3.18												
他者評価	3.26 3.45												
③	実施内容(Input・Output)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ (事前準備) <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年度の成果と課題の整理</li> <li>・「国語好き」の要素の変容を図るための尺度の見直し</li> <li>・年間を通したPDCAサイクルを意識させた授業分析シートの見直し</li> <li>・授業分析の具体化</li> </ul> </li> <li>◆ (実施研修) <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年度に11~21年経験者約113名を3年間に分けて実施</li> <li>・学習指導力、教材開発・活用力、生徒評価力にポイントを絞った5日間の研修</li> <li>・言葉の力を育む国語の授業づくり(書くこと、読むこと)</li> <li>・学習指導案の作成、模擬授業の実施</li> <li>・各テスト等の誤答分析方法についての研修</li> </ul> </li> </ul>											

総合評価と今後の方向	目標達成度	C	「No」を選択した項目	エ	<p>【今後の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 授業分析シートを活用して、受講者に課題を明確にさせ、PDCAサイクルを意識した授業改善を行う。</li> <li>◆ 到達度把握や定期考査などの数値的な分析を複合させて、課題を明確にした指導を徹底する。</li> <li>◆ 教育センターでの集合研修において、より授業改善に向けての実践研究の内容を強化する。</li> </ul>
	【総合評価】	<p>研修のプログラムについては、授業改善に有効であったが、その中で用いた分析シートの活用については、今後の指導が必要である。</p> <p>特に、生徒の国語好感度の情意面では、向上したという結果が得られたものの、生徒の学力にどのようにつなげていくかが課題である。</p>			